

## 身体の不自由な人にできること

小 五

わたしの身体は、健康です。何も不自由なく生活しています。

わたしのおじいちゃんは、身体の左側が不自由です。いっしょに出かけると、いつも大変そうにしています。右手でつえを持ち、足を引きずるように歩いているので、少しのたん差でもつまずきそうになっています。手すりの無い階だんでは、のぼるのも下りるのも大変そうなので、わたしが手を貸すことがあります。だから、おじいちゃんが一人のときは、どうしているのか心配になります。

ご飯を食べるときも大変です。おじいちゃんは、お手ふきのふくろが開けられ

ません。わりばしもわれません。食器を持って食べることもできません。みんなでご飯放題に行ったときには、一人で食事を取りに行くのもむずかしいです。おじいちゃんが一人でスープなどを取りに行っているときは心配になり、見に行くこともあります。

わたしがふだん何も考えずに当たり前にしていることが、おじいちゃんにとっては、とても不自由で大変なことなのです。

だから、わたしはおじいちゃんと出かけるときに、二つのことに気を付けています。

まず、たん差が無いところを選ぶことです。階だんではなく、スロープやエレベーターを使います。それは、おじいちゃんが転んでしまうのを防ぐため

す。わたしにとっては全く気にならない  
だん差でも、おじいちゃんにとっては、  
とても大きく大変なだん差です。おじい  
ちゃんが安全に移動できるように、歩く  
ところに気を付けています。

次に、人ごみの中にはあまり行かない  
ようにすることです。人ごみは、つえを  
ついて歩いているとぶつかってしまい、  
転ぶ可能性が高くなります。それに、歩  
く速さがゆっくりなおじいちゃんは、そ  
の中を歩くだけでもつかれてしまいま  
す。だから、人ごみの中にはあまり行か  
ないようになっています。

おじいちゃんと一緒に出かけると、い  
ろいろな発見があります。今では、ス  
ロープやエレベーターがあちらこちら  
にあります。車いすなどのゆう先スペー  
スのちゆう車場などもあります。身体

不自由な人たちも過ごしやすい場所が  
増えてきました。けれども、わたしは、  
まだまだ身の回りにはたくさんの不自  
由なことがあるように思います。

例えば、駅やデパートのエレベーター  
です。エレベーターは便利なものです。  
おじいちゃんも使っています。でも、エ  
レベーターから人がおりるときには、よ  
けて待っていないといけません。身体が  
不自由な人は、それだけでも大変そうで、  
エレベーターに乗るのも苦労があるの  
だと思います。

四年生のときに、総合的な学習の時間  
でふくしの勉強をしました。わたしは目  
の不自由な人について調べて、点字ブ  
ロックや音声案内、音きょう式信号機が  
あることを知りました。音きょう式信号  
機とは、「カツコウ」や「ピヨピヨ」と

いう音によって、信号が今何色であるのかを伝えるものです。目の不自由な人について調べてみて、道路を歩くだけでもとても大変なことだと気付きました。わたしがいつも歩いている通学路であっても、何も見えない状態で、音だけを聞いて進むのはこわいです。目の不自由な人には、生活の中にきけんがたくさんあることが分かりました。

だれもが安心して生活することができるように、わたしたちができることは何でしょうか。わたしは、おじいちゃんとお出かけするときには、必ず手助けをしようと思います。小さなことだけれど、少しでもおじいちゃんの役に立ちたいです。また、おじいちゃんのように身体の不自由な人を見かけたら、声をかけて支えになりたいです。知らない人に声をか

けるのは、とても勇気がいるけれど、がんばろうと思います。そして、身体の不自由な人だけではなく、こまっっている人がいたら助けられる人になりたいと思います。

身体の不自由な人、お年寄り、子ども、外国人など、わたしたちの周りには様々な人がいます。みんなが仲よく、助け合って生活するためには、おたがいのことをよく知ること、そして、一人一人が気づかいを大切にすることが必要です。だから、これからは自分のことだけではなく、もつと周りの人に目を向けて、気づかいができる心やさしい人になりたいと思います。